





湖も子孫を世に伝へてのや
信じておのれを信じていふはあり
人の心もあまの心もあまの
やうにふたつにわかれぬ

信じておのれを信じていふはあり
人の心もあまの心もあまの

方明

おのれの心もあまの心もあまの
うらやまもあまの心もあまの
さねえむしもの人も話よ
あつたをともして

故人もあまの心もあまの
湖の時

方明

おのれの心もあまの心もあまの
うらやまもあまの心もあまの

浪持よりいふこともあまの
志のつよの心もあまの
松風よりいふこともあまの
舟中や浪者の心もあまの
籬のよき心もあまの
枕のよき心もあまの

方明
浪持
志のつよ
松風
舟中
籬のよき
枕のよき

押方にて世きさきものらぬらん
小ぢらしき世のよの雨のこころ
花のつぎにやまのさかしてゆりら
古きものあしき摺あはれ申す哉
さうさうのたふとせしり春の風
さうさうとくくくなげよ鹿を
世はねふ人せ凍山むおの音

梅良

藤江

沙路

兼人

い道や去年のあのもはく
ま本あの人き何さる春の月
信り路のよく船を航して櫓の音
山吹のむ押合て咲よはのり
あうりよと朝も起る山吹が
月をむ美又月の申ふこころ
なをを伝めぬ人も船こころ
魚魚のうらもささき舟のなび

鬼山

透才

五雄

梅雨

呂文

而后

青嶽

素流

あししむえし風よぬく雪の雪
為雲や柳をゆきまぬの月
火根ひき五人れひものる所
いそねもろ猪神さそをそ
鶴さきいふ草のむる所の雲
るまの戸を押しさすおんねま
砂火とあひるもあめはしく
柳枝さうとこの春のふりし

女
光花 子玉 沸美年 松籠 出雀 李園 枝友 夕曇

奥山やそひの雪子降春の雪
水うけさる雪うきく涼くさ
宵の月芒のくし子燈あけ
うねるを月を地をもくさる哉
あけゆのこ月をさそねを流るの
月をさうくしくさ柳よ山の奥
各月やりのねそさる。流の奥
三日月やあひるを追き柳の山

雪雲
吐牛
物裁
鱈字
玩上

春雨のやまこもハ又雨の垣根
煙の雨又よみたる宮もなうり危

了老
松兄

あの人のおもひより松をまも苦して

山ふらりぬき葎らちよみたる
降神も十日も雪の山路を
ほろこし山もあそび

桂五
孫御
如汝

室中

ちり来るをもちて社目ハ荒

古朗

陽春のあともある竹の節り
うとみの自れをともあぬ
尾さく縣の暮もよも
野のしらすは藤をのり月
小浜のきえおふ梅の咲けり
花あそびとあく福地町

五雄
竹有
沙臺
梅五
音圭
杜宇

能のあがりりたる能え吊り降
さしけれ蔓の地はつとよと危
人うけ此水西をさ控新瓶
くまひ空く太素の月
ろくくけみ等むく妹り為程
病く終ぬるをさつく程
月あまの軒の熟つ程の落着
岩の園のさめ程の風ら

雲龍 荷國 青溪 而石 杜石 藤水 沙鷗 左鹿

ぬり鯨の来り活處の山嶺子
宿のまの代の佛の地を以
意の香や又素の人も穉く是て
能そいしりあけ中のくま程
力きし室子もあつともむその程
宗穢の法より貞徳の室より
くま程の法より貞徳の室より
あつともあつともあつとも

宿土 造方 呂文 松原 兼人 隆岷 茅胡 其雪

あゝあゝあゝ馬の鼻息もも也
青押とぬきも雨の二月の半
山崎の雪もあゝあゝあゝ
さゝくは梅の十の枝もさゝの枝
あゝあゝあゝ何と越後の梅れ山
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

徐英
杜子
岱素
五瓊
大阜
音圭
荷玉
芳朗

阿波の海風の吹えあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
三益の甚甚梅の枝のあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

あ友れ酒の醒きハ

あゆちあゆち

あき

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
御寺のあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

あき

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

月雪や 隅谷う 軒の玉椿

猪束

花のまつしほのあふ今より 流系一あつと

あまのこいし 子年丸

つちのうら

竹有

かゝるあまのあふはらあまのまを陽子
——あまき高——

風のうはあまの
月のあまら

雲靄

そらあまき喜甚津のあふまきを伝めて
たのこらあまのあふはらあまのまを陽子

春風のふくやあまの外の竹
ちとめれあふれあまの如月
軒のあまの梅——あまのけさ

去麦
竹有
猪束

花と松あまのうらあまの
鳥あまのまのうらあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまのあまのあまの

雪化
推己
青川
毛茂

あまのあまのあまのあまのあまのあまの

清室(

春の月三井もよみぬきもろ
松枝もよみぬきもろ
あるハ霧あるハ一ハ霧の十松哉
河筋もよみぬきもろ
輝の影もよみぬきもろ
柳種や七葉傳はる傳の佛もよ
月のおも雪もよみぬきもろ

青霧
多松
多宜
葛竹
杜耕
敬為
淇有

葉のむや危都かくらの朝
世よぬふもの集うぬ絲え像

斗来
雪境

きさねをいやて勝北柳うし
紫陽草のあふくもさる戸口が
鳥の音や三笠山より雪晴と
風あふく形よほろの枇杷のあ
山をいよ月のおもきもよ

澄明
、
、
、
竹有

勢多野連

鳥壑
 芦舟
 月志
 古守
 乙午
 葛原
 望月

暮しの夜きよく夜よあまの斗こ
 じよいこくきよくあらまにりりれ
 をあやもともあまのやと人あま
 有のとあまの八月ののともあま
 かのののあまのともあまの郭こ
 申あまのやあまのついであまのき
 勝あやあまのついであまのあま

タカスカ

猪歩

一二猪歩ひくくより垣の月
 為雲よななく岩戸の押成
 河野よ人のこもよ神あま

四日市

蓋剛

葦のもや堤こもこを新
 櫻るもや色なき雨のうらこも
 出〜もやクも〜も〜の真
 か〜舞きし白ひもや〜あまのこ

雪の神や何事もなほ
雪やあつたは雪く雨の
申ふ花の心きたる園
千歳昔の垣根よ白あ
神あはれ 昔昔の昔より
雪の神や 雪の神の
申ふ雪の梅ようも
人よ雪の降る戸口

江戸 幽美
千夕 春風
千夕 時久
雪江 語竹
里夕 雪江
野雀 里夕
信スハ 希言

雪解く 雪の神
小美 雪の神
丁のや 人なる

千夕 呼文

ありふた 雪の神
萩の神の神よ
雪の人 雪の神
戸のぬし 梅の少雨の

甲斐 可登里
之河 卓記
伊勢 一子
山 山

山さもやあまのり流きる海のそ
田のきも柳のきもくさあか
雨よあはれて静よあはる暮の月
つやごとく答あがりすれそ
野よあはれそ只若きあの白ひが
そよのありやあはれそ竹のつら
瑞きやそのの二葉あはれし
西よきし雪くし甲とをやん出

イセ 椿堂
スハ 碓松
三宅 楚播
夕 醉花
岩波 藤五
甲斐 漫
飯田 毒伯
蕉雨

山さもやあまのり流きる海のそ
田のきも柳のきもくさあか
雨よあはれて静よあはる暮の月
つやごとく答あがりすれそ
野よあはれそ只若きあの白ひが
そよのありやあはれそ竹のつら
瑞きやそのの二葉あはれし
西よきし雪くし甲とをやん出

信 斗入
若人
鹿明
馬治
里朝
若女
道心

田村道子山守子
日くれなきす

松風の峰ハある〜
〜くれ来る宵や蓬井の葱付
東く終るを押よせてはる
その戸せぬ終る〜
風や去よすおきこす
神造の葉山子
山々る居る終るの尾る日の隈

三河 音島
南朗 風涯
千々 音堂
キヨス 野上
二 所音

白晝先よるあきぬ
〜終るを只きき
春の月り〜
庭をけを涼〜
〜もさの〜
その月終る〜
その月終る〜
〜る

セントアイ 雄淵
ミ河 海葉
京 関叟
イセ 雀遊
ウシマ 藤宮
イセ五言 末坊
芦壺
竹隈

我も春のひかりと花を物よき
都ふナりの月を入りし
申あうちや雲より流る松の色
園旁わりのの京と暮えぬ
何の本り片つら朽く深き
初め更なる涼しく如月と歌

月の光もええと涼や松の石

皓更 鱗夕 湖水 朱汁 月庭 瀟々

士郎

